

もう一つの不信の根

●「医療」への認識の違い

患者

「医療は万能ではない」と知っているつもりだが、「現代の技術なら…」と、つい(過剰)期待しがち



医療者

「現代医療も不完全で分からないことだらけ」

● 命と医療 学ぶ機会を

「医療者も社会へ説明を怠ってきた」
「不確実性と限界を理解してもらうことが、不毛な対立を防ぐのに役立つ」



*52

本田 麻由美記者

「医療は万能ではなく、不確実なものだ」。間もなく4年になる乳がんの闘病生活を通じて、この言葉の意味がわかるようになった。

先月のCT検査で、わきの下のリンパ節の腫れが見つかった。乳がんが最初に転移する場所だ。ただ、私の場合、乳房再建で異物を体内に入れているので、炎症の可能性もある。

「がんの転移か、炎症か」。

診察室。医師と一緒、画像を凝視しながら息をのんだ。半年前のCT画像にも小さな影が写っていたが、今回は明らかに数が増え、大きくなっている。だが、がんがどうかはわからない。超音波検査や腫瘍マーカーは異常

「医療の限界」しみじみ痛感

なしたが、がんでないとの証明にはならない。白黒をはっきりさせるには手術で細胞を摘出して調べる必要があるが、それは体への負担が大きい。結局、「今は何とも言えない。もう少し様子を見よう」ということになった。

のは、患者になつてからだ。さうか、最初の手術から半年で見つかった局所再発だった。「取り残したか、医療ミスじゃないの」と友人に言われ、不安になって、主治医以外の医師の診察を受けたうえ、取材先の医師にも意見を聞いて回っ

た。「医療の限界」を実感した。医療は万能ではない、ということも、前から知っているつもりだった。それでも、現代の医療技術なら、がんかどうかの判断くらいはできなくて、速やかに治療に入れるものだと思う。た。医療の限界」を実感した

た。彼らは、乳房全摘でもすべた。がん細胞を取り切れない場合もあること、がん細胞が増殖して大きくなると検査でも発見できないこと、標準治療がすべての人に効かず、かたは分と限界を理解してもらうことが、医師と患者の不毛な対立を防ぐのに役立つ」と言う。

その通りだとは思わが、患者には、「不確実性」についての説明を受ける機会が少ない。そこに「不信」の根がある。

お便りはT100・0055 読売新聞東京本社社会保障部へEメール(ganshi@yomihi.com)。

◇ 次回号予定 6月30日

くらし 学び

